

国際交流委員会

富浦 梓

国際交流委員会 委員長
新日本製鐵(株) 技術開発本部



わが国の鉄鋼ならびにその周辺の科学・技術が世界一になったのはこれまでの国際交流のお蔭であり、今後更なる発展ならびに世界に向けての情報発信のためにも国際交流活動はますます重要です。

世界は通信、交通の発展の結果グローバルヴィレッジに収縮したといわれ、国際環境の変化は急速です。この状況に対応して今年度から従来の国際会議、二国間シンポジウムに加え新たに小規模国際会議を始めています。この会議ではテーマをしばり機動的に世界の学者・研究者・技術者を召集して、発表・討論を行います。その結果の論文集は欧文会誌「ISIJ International」の特集号として情報発信することを原則としています。

国際会議の運営の合理化についても検討し、現在資料印刷費の低減、サーキュラー発行回数削減など手順の効率化をはかっています。

今年度行われる国際交流は次の5回におよび、従来の年1~2回に比べ飛躍的に増大します。来年度以降の決定分も合わせ紹介しますので会員諸氏の積極的な参画をお願いします。

小規模国際会議：IF鋼の金属学国際フォーラム

[組織委員長：佐久間健人氏(東大)]

1994年5月10、11日(火、水) 於：東京、私学会館

極低炭素鋼の機械的性質と加工性の改善を目指した析出、相変態、再結晶、機械的性質についての討論主体の会議で、15名の指導者による招待講演に続いて、計22名の討論者との間で討議が行われました。

第1回世界製鉄会議 [組織委員長：徳田昌則氏(東北大)]

1994年6月14~17日(火~金) 於：仙台、仙台国際センター

製鉄の科学技術について今後定期化させる第1回の世界会議で、①新製鉄および在来製鉄プロセスでの反応と輸送現象 ②新コークス製造法の基礎 ③製鉄およびコークス利用の新技術 ④地球環境への適用のテーマの下に120件の論文が3会場で発表されます。開会式での講演「神話と伝統に見られる鉄」は一般公開されます。総合講演として「製鉄の歴史」に続き、世界各地域からの「製鉄技術の今日と明日」が組まれています。また「製鉄技術の将来展望」と

いうワークショップも行います。

第2回日本・カナダシンポジウム

[組織委員長：佐野信雄氏(東大)]

1994年8月22~24日(月~水) 於：トロント、シェラトンセンター

8年ぶりに開催される第2回の会議で、鋼中介在物およびニアネットシェイプ鑄造の2つのテーマのもとに日、加それぞれ12論文を発表し、討論します。

材料電磁プロセス国際会議

[組織委員長：浅井滋生氏(名大)]

1994年10月25~28日(火~金) 於：名古屋、名古屋大学シンポジオン

電磁気力を材料プロセスに利用するにあたり基礎、磁場、電場、電磁場の重量、加熱、各種性質への影響などの見地から、ポスターを含め117件の発表が予定されています。

小規模国際会議：低炭素高強度鋼の組織に関する国際シンポジウム [組織委員長：荒木透氏(神鋼)]

1994年11月29~12月1日(火~木) 於：東京、東京大学山上会館

コスト性能の優れた低炭素低合金高強度鋼を対象に冷却制御、合金設計に関連したマイクロ組織について、その解釈、分類、諸性質への影響などをトピックスとして数10件の発表と討論を見込んでいます。

小規模国際会議：第2回結晶粒成長国際会議

[組織委員長：吉永日出男氏(九大)]

1995年5月17~19日(水~金) 於：北九州

鉄をはじめとする金属からセラミックまでの結晶粒界および結晶粒成長について実験研究理論研究、構造、測定法の見地から、80件の発表が予定されています。

第4回高濃度窒素鋼国際会議

[組織委員長：菊池實氏(東工大)]

1995年9月27~29日(水~金) 於：京都、ホリデイイン京都

窒素添加鋼、とくに高濃度窒素添加鋼の製造から材料特性にいたる全分野を基礎、諸性質、技術、応用の4テーマにわけて発表されます。これまで104件の発表希望がよせられています。

第1回世界製鋼会議 [組織委員長：佐野信雄氏(東大)]

1996年4月22~24日(月~水) 於：千葉、川崎製鉄(株)千葉研修センター、みやざき倶楽部

「21世紀に向けての製鋼の科学技術」と題して、今後定期化させる第1回の世界会議で①高品質鋼 ②鑄造の今日と明日 ③スクラップ利用と環境関連トピックスの3分野について150件の発表が予定されています。

(平成6年4月11日受付)